

多くの中小企業は部門別の損益計算ができていない。撤退の前にその部門の貢献利益を精査するとよいだろう。貢献利益とは、名前の通りその部門が会社に貢献している利益のことで、部門固有の売り上げ、変動費、固定費を引いたものだ。これが赤字ならば、撤退検討に値することになる。

なお、貢献利益が赤字

本日も東奔西走

中小企業診断士からの応援歌

で、経営削減の余地も検討すべきである。2. 撤退で削減できる費用
撤退したからといって、赤字がそっくりそのまま消えるわけでは定性的に検討する。独断による人件費、事務所りがちなので、社内外スペースの部分的な返の複数の意見を聞いて選ができないことによる家賃など撤退しても消えない費用がある。なった場合でも、赤字である以上は資金流出会社全体の利益が上昇が伴う。

1. 2の検討を経ても事業に成長性や回復力がある場合は存続させるという判断もありうる。自社の競争優位性を、市場分析などから定性的に検討する。独断、楽観的判断にならない。社内外の複数の意見を聞いてみるべきだろう。

その結果事業継続と消える以上は資金流出が伴う。

戦略的黒字撤退も

ら、いったんは撤退を断すべきだ。以上が撤退を断する際のステップだ。高収益企業は黒字のうち戦略的撤退を今度のコロナ禍は誰の付記しておく。黒字撤退の理由は、①今後の成長が見込めない②低収益のままだと資金アップできない③より収益性の高い事業に人材や経営資源を集中させたい、といったもので

（火曜日に掲載）

日本ゲージ 材質傷めず汚れ除去

ステンレス・液体クリナー

【水戸】日本ゲージ（茨城県茨城町、山内十一郎社長、029・292・2511）は、ステンレスやアクリル板の表面の油污れを除去できる液体クリナーを発売した。アルカリ性水溶液を主成分とし、材質を傷めずに汚れを落とせる。ウイルスの不活化に有効な成分を含むため、新型コロナウイルス感染症防止対策製品としても提案する。価格は3000円入りで2680円（消費税抜き）から、月10000円の販売を目指す。

コロナ対策に提案

アルカリ性水溶液を独自に調整して開発ベースに、配合する界した。布などに塗布し面活性剤の種類や割合で使用。アルコー



ステンレス専用タイプとアクリル・ステンレスの両材質対応タイプの2製品を用意した

ルを主成分とし、割れを防げる。め、アクリル板のひびき昇降機や工作機械な

8法人新規認定

企業価値協会 企業価値認定

企業価値協会（東京都港区、武井則夫代表理事、03・6427・2740）は、オンライン方式を採用し「企業価値認定式」を開催した。「企業価値認定」は、企業が持つ特徴的な価値を評価し、認定する制度。新

型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年7月の下期認定式を中止しており、今回2021年上期認定式と合わせ、新規8法人を認定・表彰した。20年7月の認定式は、新規申請を受け付け、3年に1回この

事業承継 ストーリー

載荷試験で実績

地盤試験所（東京都墨田区）は1973年に前社長の金道繁紀会長が創業。地質調査と杭の載荷試験を手がける。金道会長が80歳となった20年に、娘婿である山本伊作氏が社長に就任した。同社は載荷試験や地質調査のコーン貫入試験（CPT）で国内実績を積み上

地盤試験所

創業時から技術力と現場で信頼を築いてきた。その考えは山本社長も受け継いでいる。

経営経験生きたる

実は山本社長は06年の同社入社以前、企業経営に携わっていた。祖父が回転すしを手がける会社を設立、すしネタ流通を手がける会社で自身も経営に取り組んだ。経営不振に陥った際には負債の返済や資金調達、経営権維持を目指した銀行との折衝など苦労を重ねた。当時を振り返り「つらい

現場・技術重視の姿勢貫



6年に地盤試験所に入社し、顧客への技術提案や予算管理に従事した。理系で技術や研究が好き

「社長就任後も現場に出ていけるように、技術について徹底的に学びたい」と話す

「社長就任後も現場に出ていけるように、技術について徹底的に学びたい」と話す

「社長就任後も現場に出ていけるように、技術について徹底的に学びたい」と話す